大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正十四年十一月三十日印刷納本　大正十四年十二月一日發行

婦人運動

十四年

職業婦人社發行

十二月號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

活版印刷の一發見

◇特許第五〇八〇三號單式印刷法は活字及活版機械を用ゐずして活版と同一印刷結果を收むるものであります。

◇これは無限大無限量の活字を貯藏して資金と場所を塞ぐ事を避け、文選、植字、解版、返字、ムラ取等の人手を省き、活字の磨滅に由る營業損無く、平版印刷法を用ゐて輪轉式及オフセット式印刷の能率益を完全に我ものとしたのであります。

◇この故に九ポイント組菊判百五拾頁位の雜誌は印刷部數五千部以内なら五日間で製本して御渡し致します。

◇そして其價は普通活版よりは三割安く出來ます。

◇活版より安くつく故に小部數でも或時は謄寫版より速くて安くつきます。

◇ルビの附かぬものなら新聞、雜誌、書籍等一切の活版物をいたします。

東京 本郷 元町二
小石川 二三九三

單式印刷合資會社

第三巻　　婦人運動　　十四年

第十號　　　　　　　　十二月號

時評……………………………………………………（三）
無産青年に訴ふ……………………………高群逸枝（六）
眼を移して視よ……………………………奥むめお（一〇）
◇産兒調節聯盟のビラ…………………アメリカ（一三）
結婚概略記…………………………………岡本かの子（一七）
◇三等列車（うた）………………………成田奕子（一四）
◇『家出の詩』より………………………逸枝（二四）
近況おたより（詩歌以外）………恭子、及川梅子、矢島恒三、竹内文治（二七）
黴の華………………………………………山崎艌路（一六）
◇齋藤五郎氏のために……………………むめお（三〇）
無産婦人の組織問題………………………山川菊榮（三〇）
聖マルチンの午後（創作）………………伊福部敬子（三五）
編輯室にて…………………………………………（四一）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人運動時評

□大阪に職業婦人聯盟

東京市の職業婦人總數十四萬人に比べたら、大阪市のそれはずつと落ちる。然し、一大工業都市である大阪に、他のあらゆる都市にさきがけて職業婦人聯盟の叫びがあげられたことはむしろ當然であらう。

由來大阪の婦人は、社會的團体的訓練に於ては可なりの經驗を有つてゐる。大阪婦人で、何らかの婦人會に籍を一度もおいた事がないといふものは、恐らくないだらうと云つていゝほど。たゞ、長い間、ブルジョア婦人の社交的、お道樂半分の諸會合が婦人界全体を攪き亂しすぎてゐるのだ。然し今や、それらのメイリウ婦人は一人去り二人去りして、ついにその影を絕つた。新しい時代の惱みと希望とに生きる大阪の婦人たちは、もつと實質的に、もつと直接實際の生活問題にふれた點で結合をするところのほんとうの婦人會が生れ出なくてはならぬことを知つてゐたのだ。

眞に力强い、あくまで婦人ひとりひとりの背影となつて、力を注いでくれるやうな、有力にして大きな婦人の團結が出來上るまで努力を續けたいものである。

□どんな平和を婦人は愛する乎

當局が『軍事教練を實行する動機及び目的は、靑少年の心身を鍛錬し、團体的觀念を体得せしめ、國民の体質を向上させる』ことにあると云つて、少數の軍國主義的誇大妄想家を除くあらゆる方面から、きびしい批難攻擊の雨をあびせかけられたにもかゝはらず、高等學校中學校を初め、各教育機關に軍事教育を强制することにしたのは先頃のことである。

こゝに端なくも、小樽高校の軍事教練で『午前六時天狗山を中心として大地震あり、小樽及び札幌に火災が起つて人心恟々たるところに、無政府主義者團、不逞鮮人らの不穩の劃策あり……』と云ふ關東大震災の當時を憶はせる假想敵を拵へて突

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

撃を行つたことが、北海道在住の朝鮮人の怒りを呼び、又、國內にまで假想敵をしつらへて軍事敎育に名をかつて、靑年の純朴な心にシミをつけるやり方が遂ひに全國的輿論をまき起して、軍敎反對の火の手は一層ひどく揚つた。

然し、婦人は平和を愛好するといふ事を一枚看板にしてゐる〇〇、××、△△女史などのいはゆる女流識者階級からは、何の反對の聲も揚らず、神聖なるべき敎育機關をまで軍國主義化しやうとするのを怪しむものがないかの狀態である。

一体、どんな平和を□□女史ら女流識者たちは愛好するのであつた乎。眞に平和を愛する吾々は、わが母性の名に於て徹底的軍敎反對の叫びをあげなければならない。

□娼妓見習せん女の放火

洲崎遊廓花並樓に賣られて來た關根せん女（一九）が、娼妓見習ひ中に、あまりに淺ましい朋輩らの生地獄の生活に驚きの余り、妓樓に火を放つて、自分も共々に死なうと圖つた事件ほど、當時、世人の胸を打つた事件はない。せん女は前借千二百圓で六年間苦界に身を沈める約束で來たのであつたが、後金は登記がすんでからといふので、六百圓を受取つた。然し、それも、周旋料、手數料、仕度金、旅費、雜費と差引かれたあと、親の手に渡されたものは僅かに百圓にしかすぎなかつたといふ。

娼妓になつたものゝ動機を調査すると、第一家庭の窮迫、第二女衒の誘惑、第三娘を娼妓に賣ることを大きな罪惡と考へない親と、自ら親や家の犠牲になつて苦海に身をおとすことを美德と考へる誤つた倫理思想を持つてゐる娘のためであることを思ふても、かういふ制度を公々然と許し、剰へ、それから上る稅金に算盤玉を彈き、これを土地繁榮策にも利用することを忘れぬわが社會の現狀は、貧しい女たちの前に救ひなき奈落の底とも云ふべきである。

國情が違ふからといふ苦しい云ひわけをして、婦女子の賣買年齢を二十一才に協定しようといふ國際的申合せにも、日本だけ十八才といふ除

外例を申出たわが國としては、せん女に執行猶豫の裁決を與へて母娘もろ共歸國せしめたといふのは、近來出色の取沙汰といふべし。

□富士瓦斯紡績會社のストライキ

富士瓦斯紡績川崎工場で、男女工六千七百名がストライキを開始して要求の貫徹のために闘つた。ことの起りは、勞働組合に加入した者十六名を突如馘首したからである。

要求條件

一、寄宿舍の取扱ひを改善されたし
二、被解雇者全員を復職せしむること
三、食事を改善し、營養及び淸潔に留意し、二日に一回は肉食若しくは肴を使用されたきこと
四、勞働組合加入の自由を認められたきこと

會社側に誠意がないために、爭議團は資金五萬圓を準備して持久戰に入る事になつた。各地の友誼團体から續々寄附されて來る米鹽は罷業職工の家族にも配給し切れぬ程山と積みあげられ、各勞働組合（遠くは大阪、靜岡、群馬）などから馳付けて來た應援隊と共に女工隊を先登にした大示威運動も行はれた。二十四日夜に行はれた家族會の如き、職工の妻や女工達が三百餘名參集して、この戰ひに勝ちを制するまで最後まで一糸亂れずに奮闘をつゞけやうと、互ひに勵まし合つたといふ。

大多數が寄宿舍にゐる女工である。會社側では、完全に外部との交通を絕つた上に、五百名の暴力團を雇入れてその監視にあたらせてゐたにも拘らず、文字通り血と涙の犧牲を拂つて、遂ひに次の如く有利な解決を得たのである。

一、寄宿職工（三千二百名の女工）の食事その他に就き、會社は將來誠意を以てこれが改善をはかること
二、解雇職工に對して會社は規定の許す限りに於て解雇手當を支給すること、尙ほ十六名の解雇職工に對し金四千圓を見舞金として贈與すること
三、今回の勞働爭議に加擔した故を以て會社は解雇せざること
四、罷業中の休業職工の賃銀は三分の一を支給すること
別に、爭議團に三千圓を寄附する。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級の青年に訴ふ

高群逸枝

無産者と女とは同じ社會のものであり、原始共産制の解体と共に同じやうに破滅した。經濟的に。性的に。
だから女の敵は無産者の敵であり、無産者の敵は女の敵である。

女の私共にとつて何よりつらいのは、同じ恥仲間でありながら、或る種族の女達が、ブルジョア女として區別されてゐることである。何故區別されねばならないか。そんな理由は決してない。ただ彼女達の自覺と否とのみが、私共から彼女を區別することゝもなれば區別しないことにもなるのである。
けれども私共は彼女達を敵としては勿論見てゐない。勞働者が同じ仲間の無自覺な者乃至スパイを見るのと同じ意味で、寂しく彼女達を見るのみである。

彼女達が彼女達の階級乃至その階級の支持者達に最も從順であり、いはゆる女らしくあるとき、私共の憎みは百倍する。何故なればそれは直ちに私共乃至無產階級に對して傲慢であり不遜である意味になるからである彼女達のなかでの最も從順な、最も素直な女達が時たま田舍などにくることがある。と忽ち、彼女達は從順でなく素直でない特質を、田舍の女達に對して現はすのである。

昔、こんなことがあつた。極く田舍の娘さん達であつたが、おたがひにこつそりと學問し合つて、いつのまにか然うした娘さん達には珍らしいほどの見識をもち、生活をもつやうになつた。

そこへ都會から、都會での善良な娘さん達やお母さん達が避暑にきた。田舍のお爺さんやお婆さん達は、そんな階級の人達を見ると、殿樣における家來のやうにうやうやしくする。さうするとそれが其の人達には『田舍の者は素朴である』わけになるのである。

ところがさきの娘さん達は、その人達の派手な散步姿にも何等注意を拂つてゐないやうな、否、むしろ、さうすることの失禮であることを憚るかのやうに、靜かに畑の仕事をしたり、無邪氣に外のことで打ち興じたりしてゐた。

ただそれだけの事であつた。けれどもたゞそれだけの事が、その人達には生意氣に見えたので、

『田舍者のくせに生意氣だねえ』といふやうな樣子を見せた。口走つたりもした。

あとで其の人達の夫君やお父さん達もきたが、其の夫君やお父さん達に對する彼女達の態度は、中々家庭的

で、善良だつた。

かういふ私は、いふまでもなく其の田舎娘のなかの一人であつた。

従來での意味におけるいはゆる家庭的で善良であるといふことは、私共乃至無産階級にとつては傲慢であり、不遜であり但しは無關心であり沒交渉であるといふことを意味してゐる。

原始共產制解体と共に破滅した兩者は、一は經濟的に、一は性的に破滅したのであるから、兩者が眞に同社會のものであることを自覺するには、兩者は兩者の個性上の苦惱を經驗した上でのことである外はない。でなくては兩者が共に自覺の上に立つて新たなる社會を築くといふことはあり得べきことでないからである。

なぜなら或る程度までの不合理は誰の目にもわかる。けれども不合理の底深き根底は、其の者自身の個性上の苦惱、即ち經驗のみしか知らぬ。だからよい加減の新らしい社會を、よい加減の理解なり經驗なりで築き上げたところで、それは勿論失敗に終るだらう。

眞に女が無產者と同社會の者であつて、眞に相互の有機的團結を以て立つためには、女はあくまで女の苦惱を經驗するほか無からう。否、女の苦惱の經驗から、即ち無產者との團結、そして自覺は生ずるものであるといふことを、無產者も女も理解する必要があると思ふ。

この理解の上に立つたときに始めて、私共は大聲でいふ。女達よ。無產者と團結せよ。既に團結せねばならぬ宿命を兩者は負ふてゐるではないか、と。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

このことは女自身よりもより多く無産者が理解すべきである。家庭的苦惱、そんなものはいかにも有閑的だ位に貶し去る無理解が無産者にありはせぬか。もしさうであるならば、當然、自覺すべきである女の無産者に對する自覺、卽ち彼と我とは同一体のものであるといふ自覺を遲延させることになる。

無産者がこの點でブルジョアと同じであつてはならぬ。少くともブルジョアと同じ態度で女の苦惱を見てゐてはならぬ。

この意味でブルジョアの女の虚榮や、モダンガールの放埒などに對する無理解な視察乃至冷笑に對しては、私共は默つて忍んでゐることは出來ぬ。

彼女達のああした生活には、なるほど自覺はない。けれども少くとも自覺しようとする處に彼女達が置かれてあるのだといふことを私共は告げたい。

過ぎし日の良妻賢母の道德を否定して、虚無的に、または反逆的に彼女達がなつたといふ一事實は明らかにそれを物語るものである。被支配者に倦怠はない。たとひさう見えても、それは眞の意味における倦怠ではない。また虚無でもない。

彼女達の贅澤、彼女達の放埒、彼女達の無貞操、私は彼女達を寧ろ讃美する。彼女達が少くともかうした時代では美が唯一の武器であるといふことを自覺したのに對して、絕大の禮讃を私は捧げる。何と見上げた彼女達であるだらう。彼女達がそれほど大膽になり、かの呪ふべき從順の域から脫したといふことは、私共及び無産

階級にとつてまことに喜ばしくも樂しい現象である。
思うても見よ。彼女達が虚榮や放埒の武器で、そこの階級に一大損害を與へてゐるといふ事實を。

私共は世間の口といつしよになつて仲間を冷笑する悪徳から目覺めねばならぬ。世間の口と私共の道徳とは、多くの場合反對のものであるといふことを自覺せねばならぬ。
そして此のことを、私は無産階級に訴へ且つ告げる。無産階級が女を庇ひ、女を理解し、女を仲間として尊敬し、且つ愛して欲しいことを。

私共は私共の仲間のスパイの一種族として、或る種の女流教育家、乃至女流思想家を見る。彼女達は女の感情をもたぬ。彼女達は固定した思想や生活で私共の生活を見下し、世間若くはその所屬團体の口調と同じ口調で、私共の惱みや破綻を嘲り笑ふ。
けれども私共はいはう。平凡な女が自然を行くのだと。私共は平凡な女だから、或は血迷ひ、或は傷づき、或は馬鹿のやうになることもある。
けれども、それかといつて私共の純潔、私共の生命は亡びはせぬ。
私共はあらゆる目に會ひ、あらゆる事をしでかし、あらゆる難儀、また悪事を重ねてゐる。重ねてしまつて

ゐる。嘘もいふ。私共は夕方陽の沈むのを森の中などから眺めてゐると、遂い幼年の日の記憶が胸に泛んだりして、云ひ知れぬ悲しみに打たれることがよくある。

悠久か、不幸か、けれども夕陽は樂しげに燃えて沈んでしまふ。

智的な女達は家庭を嫌ふ、よくこんな風にいはれてゐる。いかにもそれがさうした女の特殊な個性のせいでもあるかのやうに。けれども私共は、私共の惱みが決して特殊なものでなく、むしろ一層平凡な女の惱みであることを告げよう。

そしてもつと驚くべきことには、それが未來の結婚制度徹廢への芽生えであることを告げよう。

自由はその時純潔であつて、傳說であつて、神話である。眞間の手兒名のやうな、あの家庭的な可憐な女は、いまの家庭的雰圍氣の中には決して生れることなく、未來の自由のなかにこそ生れるものであることを私は豫言する。

結婚制度の徹廢は、いはゆる自由戀愛を意味しはしない。なぜならそれが人間の自然であるから。私共はこの世界における、より永遠の意味を帶びた二人の男女を見るであらう。眞の意味における男と女を見るであらう。

してまた共處には、どの國の古典のなかや傳說のなかにも出てゐる潑溂とした、可愛らしい、または才能美しい女達が必らず生れるのであることを私は豫言する。太古のさうした女達を、そのまま、いま、現代と現代の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の中につれてきたならどうであるかを思へ。彼女達はたぶん、さぞかし家庭に惱み、家庭を苦しむことだらう。彼女達に似た生活乃至本能が、次第に現代の女達の個性のなかに目覺めかけてくるとき、卽ち女達は家庭に惱むのである。男に對する女の關係は、資本家に對する勞働者の關係とは少し違ふ。女は決して男を敵とは見ぬ。たゞ現在の家族乃至家庭制度と、その雰圍氣とその雰圍氣の支持者とに對して反感をもつのみである。

潑溂としたといへば近代の娘さん達がさうであるといふ者がある。近代の娘さん達が生々して自由で伸びてきたことは事實であるといふ者がある。けれども私共はそれをそのまま肯づくことはできぬ。あれは伸びたといふより、文化的だといふ方が正しい。なぜならこんな社會、こんな雰圍氣に少しも不調和でない、卽ち惱みをもたぬといふ意味になるからである。私共は壁の中のじめじめした一隅や、人を避けた森の中などに、他所目にはいぢけた、不健康な、物悲しい娘さんのゐることを想像する。そしてそれこそ、眞の意味における、潑溂たるものの芽生えではないのか。

無産階級の青年達に私はかく訴へる。そして告げる。私の聲は血と共に、苦惱と共に叫びだされる。なぜなら見渡す限りの者の目——男ばかりでなく女自身の目でさへも——の、あまりに無理解な視察、そして冷笑へ毀されてゐるのを認めるからである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ここでいふ無産階級の青年とは、無産階級の青年乃至無産階級的に自覺してゐる青年、また男達をさすものであることはいふまでもない。

□

尙、終りに一寸つけ加へさせて頂く。それは前號の私の『女と家庭』に就てであるが、あれはまことに苦笑すべきものでしかなかつた。といふのは表現が適確でなかつたといふ意味で。

とりわけ私のこれからの家庭生活を悲しむべき生活ででもあるかのやうに表現してゐるのは、何と馬鹿なことだらう。

けれどもあれはかう云ひたかつたのであつた。私といふ者の私的の生活が、まことに何一つ出來ず、どこにも行けぬやうな工合のものであるから、これまでもさうであつたやうに、これから先きも、嘸かし夫が困るであらう。さぞかし夫の足手まといになるであらう。それは夫に對して何と濟まぬことだらうと。

けれども、既う私はその事に就て心配し悲しむことをやめた。近所や其他との交際も、或は買物や其他に就ても、私はまことに駄目だけれども、もうその事に就て心配し悲しむことをやめた。私は私で出來るかぎりの力を盡して夫の手助けをし、家事に勵むことをかたく心に誓つてゐる。

黴の華

詩歌以外

山崎嶮路

鍋割り雨が降りつゞく

水にぬれた稲穂を女達が火にかけて煎る。

米の値の高い話を外に、喰ふ物の盡きた百姓は、水づいた籾を煎つて

欠け無しの鍋を割りくだく、それは有する者達に何のかゝわりも無き舌ざわりなり。

水呑百姓のしがなき今日、此の頃の雨

ザザザ、ザザザ…………

× ×

× ×

三等列車

成田美子

三等列車の中は
すしづめのやうに一杯だ
今一人の老人が最後に
重い手包を提げて入つて來た

目一杯の三等列車にはすきもない
向ふをのぞくと、誰一人ゐない
居らぬ筈だよ、そこは
二等車だ

老人は列車の動搖につれて
立ちくたびれてしまつた
腰かけ處はなし……

いや、老人ばかりではない、若人も婦人
も、こつちの車外の鐵梯の危い上にあふ
れて押しあつてゐる
老人は疲勞と息苦しさに
人の居らない二等車の片隅に
おづおづと腰をおろした

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貞操とは、
『女が男の所有物だと言ふ奴隷根性の光榮ある遺物に出發する……』
一度お嫁に貰られて出つくり返つた女と、
父なしの處女懐姙をやらかした娘と、
近所隣りの御亭主と姦通してゐない嗚楽とを、
ひつくりからめてマイナスすれば、……
俺の村には、それ以外の女の子が一人もゐないんだ。
『どりや、祝禱でもしべえか……。』

× ×

× ×

慰謝金と配當金とで
社長の未亡人が、工場を見下す高い丘の上に御城の樣な家を築いた。
油と綿だらけの
夜業女工が、地獄の笛に呼び立てられて、
魔の樣な工場の口へ吸込まれて行く夕べ…………
『高き家敷の石垣に、淡き秋陽の斜に流るゝ』

× ×

と、入つて來たのは車掌だ
『あなたは？三等ですか―
『はあ』
『こゝに居られては困りますなあ』
老人は起ち立つた
『へい！、こゝらでようがすか』
『いや、そつちの外に出て下さい、此處を閉めますから』
車掌はあせつた、
老人は胴クソ悪さうに、云放つた。
『入れられないものを、何故ムチャクチャに詰め込んだのだい』
『君、それが悪いなら、三等車の方には入るところを見つけてくれい』
そばにゐた人の好ささうな若者は
硝子戸越しに二等車を覗き込んでは
うろうろと三等車のひしあいの中にもぐり込まうとしてゐる、
老人は若者に云つた、
『おい君、なに、君、
そんなにびくびくしてることがあるものかね、一体汽車を一等の二等の三等のと、こんなに差別をつけてゐることが不都合なんだ、
今に、俺たちが承知出來なくなる時が來

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

×　×

嗚大明神の御利益

　肉用……產卵用……勞役……愛玩用

神棚の造りは

　跼蹐……不具……低能……心神喪失

婦人は…………

愍人なりけり。

×　×

×　×

十五歳の少女が村の用水池で溺死した。

一晩中、若者達が赤裸になつて池の底を引掻き廻したらば、ゲンゴロー虫に目も唇も、鼻も指も嚙み切られた死体が夜明け方に浮き上つたさうだ。

それは小學校で水泳の練習を强要される苦しさから、村の用水池で獨稽古をしたのがもとだとか。

『重箱詰が腐つた樣な、御用教育の徵の華かな』

るぜ。鐵道では三等客で一番儲けてゐるのだからなあ」

とは云つたものゝ

老人は片隅に立すくんでゐた。

颱風

望月ゆり子

颱風よ　旋風よ
吹きまくれ　荒れ狂へ
怒號　叫喚　万雷の如く
おゝ吾等はたゞ　地にひれ伏して
汝を讃へ　汝を待つ
野蠻な力
野蠻な暴虐
おゝそれこそは　此地上を淸める
唯一の武器だ

結婚概略記

岡本かの子

奥むめおさんのお質問ですが、これは隨分、廣い論陣を立てなければ開展しつくせない問題ですのに僅々四五枚に書かなければなりません。私の結婚。これはまたまことに簡單な考へから這入つてしまつた初歩です。

式着の模樣を着せてしまつた母が、

『K子おまへはなぜそんな平氣な顔して居るのだい、お嫁に行く時はね、誰でも泣くものだよ、心細くてね、いざ、この家の者で無くなるといふ氣持がするのだもの』

『そんな氣も少しはするけど、でもわたし、直ぐまた家へ遊びに來られてよ、明後日あたりね』

妙に一種の詩趣にはませて居ながら實世間的の規約など無視するといふよりは何にも知らない、實は氣にとめないたちでした私は、結婚するのを少し大げさな客に行くくらゐにしか考へて居ませんでした。これはもつとも、

私達結婚の感情的內容にもよるのでした。

私は、或時期からの非常な誤謬から、自分を性的不具者だと考へて居ました。それで、そんなさつぱりした結婚をするまでには、すでに人知れず自分のその斷定にどれほど悲しんだか知れませんでした。で、戀とか、男性とかを、自分の身に無關係のものとして居りました。その私を、みんな承知で、懇望に懇望を重ねたその時分の美術學生岡本氏が秀逸で美青年であるのが珍らしい樣にも一種の好みに適したやうでもあり、淋しい藝術を友として一生を送る爲には好い道伴であるやうなといふ程の好感とともに、普通の結婚條件とか、戀愛慾とかとはまつたく別な、好く云へばピユーアな無邪氣な氣持ちで、わるく云へば、うかつに、ついすらすらと實家をはなれてしまひました。

しかし來て見れば、この結婚の私的な動機とはまつたく異なつた實際的世相が、嚴としてその甚だ迂濶なしかし無邪氣な、そして冥想的な哀愁に傷み安い、一種不可思議な現世に不適合な花嫁を待ちうけて居ました。

身のとりなしなら心や舌端の使ひ分やら、すべて緣家に因みのあるもの丶下町風の器用なのにまるきり合はない私の山の手式、洒落も時候の挨拶もろくろく出來ない中變性無しが、眼ばかり大きいとて『だんまり蛙』とあだ名さへ取りました。

役に立たない嫁、その嫁をつれて來たしかもお金にもならぬ繪ばかり書き損じて居るすいきような息子、親達から追き勘當同樣にされてかなり下町摺れして居ましたが、根は善良なお坊ちやん氣質の良人と、これはまたとてつもなく世間見ずのお孃樣である妻が、一人の男子の親として、また自營者の一組として、社會に、また自分達自身に直面しなければなりませんでした。

其處で私達は、

『學校を出れば直ぐ、自分の妻子を養ふはもちろん、たとえ滿足な生活をして居る親にしろ、少しは收入のうちから獻上すべきである』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふ日本の或社會のうちに當然傳はつて居る親の思想をも知りました。たゞそれが私達不成算的な、とりわけ良人の美術（西洋畫）が直ぐに前述のやうな母親の要求にあまり逆つて居たのに當惑しました。然しそれよりも尚當面の當惑は、自分達の家庭へ、日々の糧を如何してとりいれやうかといふことでした。しかしまた、それよりももつと當面の悲哀は、にわかに馴れぬ家事を課せられてその勞役が身を疲らし、ずつと健康を弱めたばかりか、自分の生命であるべき處の藝術の表現も努力も殆ど犧牲にして居なければならぬことでした。あの時分のことを思ふと、丁度生き埋めに逢ふて居たやうな氣がします。良人は享樂に馴れて居て、燈の暗い、寒く淋しい家に今の長男である當才の子供と共に取殘されて、暗膽とした氣持ちで或人々をうらみ、身の不運をかこつて居ました。

やがて、そのやうな境遇に堪えられない私に必然であるべき致命的重病が私を襲ひました。

三ケ月の病臥は、多くの人々を驚かせましたが、とりわけひどく良人を打ちました。私がやうやく全快する頃にはもう良人は朝日新聞社の漫畫記者となり、一面親切な良人となつて居ました。

それからの私は物質的には平調でありました。たゞ良人の下町趣味と私の山の手趣味が隨分戰ひました。それゆゑ良人に因みある或種の人々からも私はかなり憎まれました。戰はどちらが敗けも勝ちもしない、いつか兩方から融合し同化し合つて、今ではかなり理想的な兩所相俟つて居るやうな自信を持つて居ます。

私には妙に一種の反抗心が以上概略に記した履歴の經路から養はれてしまひました。それを持たなければ恐らく私は私以外の種々樣々の衝突であつたアトモスフエアから今頃は壓殺されて居たかも知れませんでした。

與むめおさんの私への質問の要點は、その私の貧乏生活時代の感想はどうであつたといふことになるのでしたが、これについて私は、かなり呑氣なお返事しか致し得

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ません。

私は物質に對して非常に素直な性分であります。卽ち『無ければ無いなり、あればありしたがい』只一番苦痛なのは『無いのに有るやうな生活をすること、有るのに無いやうな生活をすること』これなのであります。

では一錢も持たなかつた時はどうであつたかと問はれませうが、さういふ時もありはありました。が、幸か不幸か、私が親から貰つて來た貴金屬衣類などがありました。私はそれらを、今持つ品々とはくらべにならぬほど無雜作にお金に替へて行きました。以上概略不備で御座います。

眼を移してみよ

奥むめお

岡本一平氏とかの子氏との、藝術家同志の家庭生活に就いては、斷片的にではあるが、そこいらのありふれた家庭に於ては見るべくもない、自由にして 、幸福さうな消息を、新聞や雜誌で時をり見るのであります。さき頃、逸枝さんの家出があつた時すぐに思ひ合せたのが、かの子氏の家庭生活、結婚生活に對する御感想は?といふことでした。寄せて頂いたものは、私の聞きたいと思つてゐた點々には可なり外れましたが、然し、興味深い

ものでありませう。藝術家としてのかの子氏は、主婦として、家庭的に重寶ないはゆる家庭奴隷としては、非常に不適任な女性として傳へられてゐます。

女が目ざめて來るに從つて、單なるよくまに合ふ家庭奴隷としての生活にあきたらずなつて、妻としても、母としても、それぞれの素質に從つて、そこに自分自身の生活を見出さうとして苦しみもがくやうになるのは、必然でありませう。どんなにその勝れた才能をみとめられてゐた人でも、一旦家庭といふ牢屋に引ずり込まれたらやがて世にも重寶な家庭的奴隷になり切つてしまふのが普通である今の世の中で、かの子氏が、いよいよかの子氏自身を生きて、藝術道の精進をつゞけてゐられることは羨望に堪えません。

○

然し、かの子氏の、

『無ければないなり（あればありしたがひ）』

といふ言葉は、なくてもやつてゆかれる程度の無さ加減だけにあて嵌められるものであつて、その場合、無雜作にお金子に替へてゆかれる貴金屬や衣類などを親から貰つて來てあつたかの子氏は、いはゆる惠まれた人といふべきでありませう。

と、私に思ひ出されるのは平塚らいてう氏の近ごろの世を避けたあの生活ぶりです。『島山より』のたよりを通して、私たちは氏が片隅に靜かにつゝましやかな幸福を求めて、良人と談し、子供を撫愛し、灯を消して虫ど共に語るといつた風の生活に浸つてゐられるのを聞くにつけても、『のんびりと暮してゐられるらしいな』と、世の中を吹き捲つてゐる生活難の烈風に身をさらすこともなく、暖かく、靜かに、親と子のまどゐを樂しんでゐられる氏の姿がほうふつとします。

職業生活が女から、女らしさを奪ふか奪はないかは別問題としても、數千の年頃の女を、職業へ、職業へ、と勞働市場にかり立てゝゐる今の世の中、可愛いゝ子供を託兒所にあづけて工場に急ぐ母親、足手まといなこの子

さへ無ければ、と、思ふにつけても、あとからあとからと追つかけて來る生活苦に身も心もいらだつて來て、思はず罪もない子供にあたる親たちの氣持をも、決して人ごととはみてゐられぬ私たちは、女から、母親から、かくも無殘に母性としての喜びと幸ひとを奪ひとつてゆくものは誰ぞ、と叫ばざるをえなくなるのであります

○

ある製糸と織物とを兼ねてゐる工場に働いてゐる友だちから、

「私たちの仲間が夜晝かうして働いて、一ケ月何十萬とも知れない羽二重が出來上つては出荷されます。自分たちで拵へた紋羽二重を一反あなたのお羽織にお送りしたいと思つては、毎日見つめてゐますけれど、自分たちで作つたものでも、私たちの毎月會社から貰つてゐる金子の二倍に近いほど出さないでは買へないのです」

といふ手紙をうけました。いろいろの事を考へさせられる手紙であります。

今年は豊作だといつても、百姓はみんな白い御飯に腹づゝみを打つてゐるのでは決してありません。

私たちが町を歩いてゐてショウウヰンドなどを覗いて見ていつも思ふのは、世の中には、隨分便利なものが發明されてゐるんだな、といふことであります。私たちは十年一日――と云ひたいけれども實際は百年いや、千年一日の如く薪をくべてすゝだらけになつて御飯を炊いてゐるのに、栓一つひねれば、御飯もたけるし、湯も沸きお茶もほうじられる電氣機具が陳列されてゐます。洗濯には自動洗濯機、掃除には眞空掃除機等々、それらの只一つをわれわれの家庭に持つて來ても、主婦としての私たちはどんなに助かるか解らない、と思はれるものばかりです。

春夏秋冬、米を作るためにその勞役をさゝげて來た百姓が、何故、ジヤガ芋や麥で腹を充たさねばならないか。家庭的に重寶ないろいろな文化機具を、むなしく陳列棚の中に見流しながら、何故、私たちはそれを自分たちの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日常生活の利便に供する事が出來ないでせうか。
況して、一方には、米倉に、うなる程米俵を寢かせておく家があり、女中も、婢も下男も、ほしいまゝに雇入れてゐる家庭に、それらの文化機具が、その上にも利便なやうにと購ひとられてゆくのであることを考へると、むしろ憤りに近い不可解感におそはれざるをえないのであります。

眼を、私たちの家庭から一歩外にうつして、今の社會の諸相をみつめて考へてみたいものであります。

アメリカみやげ

産兒調節聯盟のビラ

爾來產兒調節の主張は、それに反對する法令の存在してゐるにも拘はらず、金持や顯位にある人には容易に知られてゐた。しかし勞働者達はそれを知ることが出來ず、又我々も、これに告げることが出來なかつた。

安い勞働の雇主や、軍國主義者共は、大衆にその家族の數を加減する方法を知らせることを欲しない避姙を實行し、或はその方法を敎へることを禁ずる法律は通過した。金持はそれでも行つてゐる、貧乏人は知ることとすら許されない。それと、言ふのも、凡てこれらのことは輿論を支持する方々の高尙な倫理觀に訴へる、高い道德的根據があつての事ださうである。

しかし今や大衆に、特に勞働者達に、この家族の數を加減する事が出來るやうにする運動の內容を示す時は來た。子供達は大事を取つて產まれねばならぬ、望まればならぬ。

一九二三年一月に、聯盟はニュー・ヨーク市に、外科相談所を設置した。一九二五年一月までには、四千の人々に施術したその結果、勞働者達にとつて、それが死活に關する程の重大さを持つ事實がわかつた。

第一。事實上四千人の人々は凡て勞働階級の婦人であつた。

第二。法律は、婦人がその家族の數を加減することを妨げ得ない。それはたゞ彼等に正當な調節法を知らしめることを妨げ得るだけだ。何故といつて、婦人達は法律の如何を問はず、無効な、或はかへつて害ある方法を用ひてこれを實行してゐる。中には墮胎を行ふものさへあるのだ。しかも墮胎の數は驚くべき程多い。家族制限の安全な又適宜な手段に關する知識は、事實上勞働者の間には見出すことが出來ない。

第三。數萬の勞働婦人に、その手段を敎へることは爲さうとしても出來なかつた。法律は、病に惱み、苦痛に苦んでゐない限り、婦人にこれを告げることを不法としてゐる。しかも、聯盟の醫師達はやがて、これ等の婦人達は、出產過多の結果、從床上の破綻を來たすことを知りぬいてゐるのだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「家出の詩」より

逸枝さんはこんど『東京は熱病にかゝつてゐる』といふ新詩集を出されました。（價一、九〇圓東京大久保百人町萬生閣發行）家出の詩は、その附錄として添へられたものであります。

逸　枝

農村には模範靑年がをり、
家庭には模範婦人がゐる。

工場の模範工は今では嘲られてゐる。
農村の模範靑年も
識者から嗤はれる。

だが一人家庭の模範婦人、
模範的妻は、
識者からさへ讃められてゐる。
少く非嗤はれてはゐない。

これは、識者が男達であつて、
女の苦がさを知らないからである。
一つは、それが便利であるからであらう。

×　×　×

おゝ、所有され使はれてゐる妻。

所有　被所有の氛圍氣は、
この社會の社會的氛圍氣の中心。
勞働者は資本家に、
小作人は地主に、
妻は夫に、

そこでは所有者は主人であり、
被所有者は奴隷である。
そこでは　善良な奴隷が、
そこの道德で讃められる。
工場には模範職工がをり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お前が昔乙女であつた頃の、
戀人であつたあの人は、
無理にも社會から夫として押され、
夫としての所有權と、
所有意識とを持たせられてゐる。

妻は生涯所有されてあらねばならぬ。
妻は貞淑であらねばならぬ。
妻は夫が汚れた着物を着てゐることを、
道德や世間に對して恥ぢねばならぬ。

それが妻らしい妻である。
それは恰度、下男が下男らしくあり、
小作人は小作人らしくあるのと同じに。

けれども妻よ。
お前は又しても思ひ出すだらう、
昔あどけなかつた頃、
戀人と遊びたはむれたことを。

夕日は沈默してをり、
風の吹き通しの荒れた岩の上には、
子供たちが遊んでゐた。

それは非世間的であり、
非所有的であつた。
そこで女は、
永遠と瞬間とを司る、
愛の神であつた。

あゝ女を奴隷意識から解放せよ。
女を女自身の地位におけ。
女に天を與へよ、青い天を。

一度結婚したが最期、
重くのしかゝる、
所有非所有、支配被支配の觀念とその氛圍氣。
昔の青年は夫となつて、
世間なみの夫たらんとし、
昔の少女は妻となつて、
世間なみの妻たらんとする。

世間なみの夫は時々は娼妓を買ひにゆく自由をもち、
妻をあごで使ふ位置を獲得する。

娼妓を買ひにゆかない夫は、
ただゆかないだけのこと。
けれども自由だけはちやんと持つてゐる。

世間並みの妻は、
妻の道といふ世間並みの意識に自分を賣る。
自分を賣ることを恥とはせずに、
自分を賣らない他の女を批難さへする。

もはやそこでは愛は歪む。
もし彼女が女の自然のまゝの、
愛と自由とをもつてゐるなら、
彼女は結婚、強いられてゐる所有
被所有の觀念を否定すべく、
もがき苦しむのが當り前である。

× × ×
× × ×

けれども結婚とは何か、
所有被所有の別名ではないのか。
自分の自由を縄で縛ることではないのか
まして女にとつては。

人はいつまで結婚といふ形式に執着してゐるのだらう。
例へば私有財産といふ制度に、
執着してゐるのと同じに。

私有財産制度の不合理は、
無産者が痛感する。

結婚制度の不合理は、
女が痛感する。

女の眞の自覺は、
結婚制度の改革などでなく、
結婚制度の撤廢を要求する。

まだ眞の自覺をした女を見ない今日、
このことは男達の手でうやむやなものになつてゐる。

結婚に重大な意味をおいて考へる習慣は、
所有被所有、支配被支配を原則として成立つてゐる
社會の泥の習慣である。

泥の習慣、泥の意識。
何と恐ろしくも忌はしいものだらう。

近況おたより

奥むめお

ある娘さん。
が不幸にも結婚に破れて上京して來た、娘さんは東京に出たら運が開ける、と易者が言つた通りを、信じ切つてゐるのであつた。私は、手頃な相手を見付けて早く縁付かせたいと思つて二三心あたりを當つてみたりもしてゐたのであつた。

ある日娘さんが來ての話に「主人が大層やさしく親身も及ばぬ程にいつも私のことを、さきのさきまで心配してゐて下さる」

「結婚の事だつて、いつも考へてゐるのだ、その内、いゝ人を見付けて當家から嫁入りさせてやる、つてまで言つて下さる」云々といかにも嬉しく自慢さうなので、私は何氣なしにそれに相槌を打ち乍ら「そんなに親切にして貰へるのならいい所へお嫁入りをさせて貰ふ迄、いつまでも辛抱して、勤めなさいよ」と勵して歸した。

ところがその娘さんには私の言葉が、不滿だつた、さうなのである。實は、率公口からのお世話でお嫁入りをするのはいやなのであつたさうな。娘さんは、その時私が、いや、それよりも――と、かう言ひ出して何か話しかけてくれるのを心待ちにしてゐたのであらうか。

あとでこの話を聞いて、私は苦笑した「腹の中と口とまるで違ふんだからな」

婦人公論の奥むめお評論の中で、齋藤氏が、勞働部が私に期待し、又私をかつぎ上げてゐたのであつたが、私がずぼらであるために關係を斷つに至つた、といふ意味の事を書いてゐられる。私は、あの當時合同の話が取やめになつたのが、私のずぼらに起因してゐたことを一年后の今初めて聞いた。而も、あの合同談が決裂した時あの席に立合つてゐられた齋藤氏の筆を通して私が今これを聞くとは何といふ不思議だろうとさへ思ふ。

一體あの席上で合同談を取りやめにしたのは、私だつた。然し、何分にもムキになつて人に話すにはあんまり馬鹿らしい話でもあつたので、事情を公表するのも大人氣がないと、私はそれなりに濟してしまつたのであつたが一一七八本か來た問合せの手紙にさへいきさつは書かなかつた――いやしくも事、わが「婦人運動」と奥むめおの名譽に關することである限り私が、自分に不利益な事情があつたから口を緘して話さなかつたやうに考へられてもいけない。私は、他を傷けてまでも自分のために有利な言ひわけを喋喋する程勇敢でない以上に、自分のために不利な事に就いて、ことさらに口をつぐんで語らないほど臆病ではないのだ、あの事件以后、私は當の責任者山田やす氏のあの不信、不實な言行に愛想をつかした結果、自分の生みの子を人にあづけてゐるやうな感じの深い勞働部そのものにさへ足が遠くなり勝ちになつてゐる。

あの當時、私がずぼらだから、といふ理由が少しでもあつたのならなぜあの時あんな不信な言動に出ないで堂々とそんなにも都合のいゝ口實を持ち出すことを忘れてゐられたらう。況んや、私のずぼらは、何年か前からの定評であることを百も承知の上でありながら、又、私のず

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ばらな、笑話の一つにさへして、ひやかしあつていた仲で、改めて合同談を持ちかけて來た管であつたにも拘らず？

一年後の今さら私がこの古傷を洗ひ立てたといふのも口と腹の中と、てんで逆つたことを咙々と言ひ並べて恥としない一部現代女性の卑屈さに一矢を放つたつもりなのである。

今年は春以來、私が旅（但し講演旅行）をしすぎたために、肝心の職業婦人社の仕事が、雜誌をはじめみな、片手落ちになつて、後悔をしても、おつかない程度まで滅茶苦茶になつた。購讀してゐて下さる方々を初め、いろいろと心を添へて頂いてゐる方々に對して、申しわけのないことをしたものだと、一生懸命に、整理を急ぎ乍ら、來年から萬事キチンキチンと運ばせやうと自分の心に誓つてゐる。ほんとにどう言つて詫びていゝか苦しくなるばかりだ。

大阪支部も早速乗出す手答だつたが、母の死にぶつかつて豫定が狂つたので、一時延期するの餘儀ない事情に陷つてゐるが、今の處一月からと豫定してゐる。

東京の方の仕事に就いても來月號で具體的にお知らせをしたいと思つてゐる。みなさんから寄せられる好意に支へられつゝわが職業婦人社も第四年を迎へやうとしてゐる。感謝と悦びに堪えない。

沖縄にて

春子

今度表記へ轉勤いたしました。十月も十一月も、ずい分お待ちしてゐましたのに、一向にまいりません。發行日がおくれなすつたこと、その內來ませうと待つてゐます。

どうぞ大きな使命の前にお働きなさつて下さい。私は、何かしら、申上げたいことが深山にある様で……………でも、きつと私の心は、懸命になつて下さいつて申上げてゐるんでせう。どうぞお大事に。

仙臺より

及川梅子

その後御無さたいたしてゐます。只今一婦人運動ゝ御送り下され有り難う及じます。

私の周圍になります同性の覺醒の爲めに、好いものと信じます。仙臺は御存じかも知れませんが、割合に思想的に新らしい生氣を持つてゐますし、女教員中にも、少なりな意氣を有するものもあり、

先般、はじめて女子の小學校長がおかれ、周圍から、只今までの習慣的感情でとやかく攻擊もあり、批難もあり、その矢面てに當人及び私が立たねばならなくなつたりした結果、女教員の有志者のかたき結束を作り、共に女教員の反省を促しゆゝ、素質向上、などにつくすため、ひたすら奔走しつゝある際ですから。かうした雜誌はまさに時を得ることゝ存じます。本日は多忙にとりまぎれて、ザッ卜拜見いたしたのみにて、御批評申すことも出來かねますが、なほ一層女教員の讀みものにもして頂き度い希望でなります（後略）

？

？

矢島恒三

前略…………

多くの困つてゐる人達を幸福にしたいとする……運動が何故に危險なのでせうそれこそ大きな愛の運動であるのに、

そんな誤解を受けられる事が、度々地方ではある事でせうね。それにしても、席暖る暇のない程西に東に愛の運動に熱中せられてゐる事を肯く思つて居ります

今は全く、どうすれば良いのか私達にも分りません。私達の樣な小さな事業がいつも、より大きな事業家から壓迫されて、私達が現在の社會的な優位を得る爲めには、より資本主義的になり、精巧な機械も使ひ、より以上に能率を上げなければ彼等に壓倒されてしまう。そうする事には人間を益々機械化してしまう丈けで、何の得所が有るでせう。

そんなにまでお互が殺し合はないで、互に愛し合つて行く事は出來ないのかしら。悲しい事だが、やつぱり人が惡いのでなく、制度そのものの缺陷の爲ではないでせうか。

一體文化なんてものが疑問です。人間が文化々々と謳歌してゐる内に、人間がそれに操されてゐる事を知らないのではないのでせうか。醫學の發達する爲に益益弱い人間がふえたり、電氣事業が盛になる爲に地方の自然を、荒し、氣風を惡くしたり、全く何が何だか分らなくなります。

將來社會はどんな風に轉換して行くものでせう。

そうかつて江原小彌太氏のやうに、惡を惡と見、惡を惡として有るがまゝに見る、

それ丈けでは何んだか私には滿足出來ない。

では一體人間はどう轉換して行くのか、人間の理想は、期待は、どこに持つて行けば良いのか。

現實をしつかり踏みしめて、はつきり見極めなくてはならないが、猶その上にどう動かうとする信念が必要ではないでせうか。

まあ併し、私達は、現在の郷土が都會の人達に荒され始めて、多くの事業が、件んな都會に搾取されやうとしてゐるのを、先づ何とかせねばならないと思つて居ます。

一　勞働者より婦人へ

竹内文治

私共勞働者は我日本の婦人運動者の中にあなたのあることを心強く思つてゐます。多くの婦人運動者がデモクラシー全盛時代の活躍期を最后に皆結局ブルジヨア婦人のイゴイズム運動に惰落して行つた時、よくあなたのみが我々無産階級の爲に踏みとゞまり、眞個の婦人解放運動の爲に勇敢に戰れて居ることは、私達勞働者（男子）の感謝する處であります。

扨、私達勞働者が人間としての自覺から困苦と缺乏と失業の不安をも顧みず、ブルジヨアの罪惡行を刑務所に換へても投じられずに居られない樣に、婦人も亦眞個の人間としての自覺から勞働運動に入つて來なければならないと思います。

婦人問題の解決が婦人自らの自覺したる反抗のみによることは勿論でありますが婦人は今日の婦人問題の終局の解決が奈邊にあるかを最も深く探査せねばならない、もしも婦人が單なる男子への反抗によつて婦人問題が解決されるやうに思ふ淺薄な婦人運動者にゴマ化されて居つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たならば、百年河清を待つに等しきものと謂ねばならないと思います。勿論今日の婦人は、全體として男子の性的奴隷であり玩弄物であるのは事實であります。

然らば婦人は何うして奴隷たらざるを得なかつたか　それの答は簡單であります。即ち、現代の無産勞働者が、賃銀奴隷として人格の存在を拒まれてゐるのと同樣であります。實に人間の奴隷史の第一頁は婦人であつた、そして奴隷史の發足は私有財産制度の發生にあることを思ふ時、勞働問題（社會問題）の根本と、婦人問題の根本とが決して違つたところにあるものでない事が明らかであります。

おゝ婦人諸姉よ、勞働者は、我々解放せられんとする者は、唯萬人勞働の世界にのみ白由と幸福は待つべきでありませう。完全なる婦人の解放は決して現代資本主義社會に於ては、見出しうべくもないのであります。

諸姉よ、現代の十字架を負へる婦人よ。私たち勞働階級の男子は決して諸姉の盲從を望まぬ、私達は支配なき世界の幸福を知つて居る、私達は唯諸姉を最もよき友として迎へ、理解と協力によつて、よりよき社會の建設のために闘ひつつ人生の作品者として共に無限の喜びに生きんことを切望するのであります。

一九二五、九、三〇、

爲藤五郎氏のために

「『江戸の仇を長崎』婦人公論で打たれましたね。何か爲藤さんに根みを買はれてゐるんでせう」と、私はよく友人達から訊ねられる。まさかいくら爲藤さんでもそれ程大人氣ない人ではありますまいよ　と、氏のために辯じておくと共に、今一つ氏のために事情を明かにしておく必要を感ずるのは政治研究會と私との關係である。

私が大會の席上で只一人の婦人中央委員として擧げられたとき、すぐにその席上で固辭し、翌日又幹部あてに辭意をハガキで書送つた事は當時中央委員の一人であつた爲藤氏が知られない筈がないと思ふ。その後、政研中央委員の連名で懇篤な受諾勸告の手紙をうけ、再び事情を詳かに書いた辭退書を出した事も知られない筈がないと思ふ。（私の辭意は、先頃の臨時大會ちよつと前になつて、漸く聞き届けられた）

私が何故辭退したか？その事情も爲藤氏は充分知つてゐられる筈であらうけれども、いそがしすぎるから。家庭といふ重荷と、職業婦人社といふ大仕事と、今の私に、その上責任ある地位を與へられてもこれ以上に働く餘裕がどこにあらうか、と。政治運動に就いて、あくまで實際的に、大衆と共にコツコツ進んでゆきたいと考へる私には、ともすれば主義主張に捉はれすぎる政治研究會の傾向に同じかねるといふ心もあつた。その時附加へて言つたことには、どうしても私をやめさせて貰へないならば一會員としてならば喜んで出席して働いたかも知れないやうな場合にも、出席する事を差控えて、あく迄私の辭意を徹底させるより外はないでせうと。

政治研究會婦人部を初めて設けるに就いて下相談をしたその日すでに、私は、責任ある地位について働くことは現在の事情が許さぬから、といふ事を繰返し述べてゐる。

私といふ人間が、一諸に仕事をするには、ずぼらであてにならぬといふ證據としてあげるのには政治研究會の例は、爲藤氏のために賢いものではなかつた。（むめお）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産婦人の組織問題

山川菊榮

愈々無産政黨の結黨式も近づき、日本の無産階級の陣營は漸く整つて來た。それに就て婦人として考へねばならぬことは、無産階級の婦人を政治的に組織する方法如何といふ問題である。元より、これは婦人のみの問題でなく、男子も等しく考慮せねばならぬ問題ではあるが、目下のところ婦人は結社に加入する權利がないこと、その政治的自覺が幼稚で、急には强固な勢力となり得ぬことなどから、男子の方では殆んど婦人のことは問題にしてゐない。そこで一方では男子のこの無關心ー無産階級運動全体の發展のために有害なこの無關心ーと戰つて、男子をして階級的に重要なこの問題に對して十分の注意を拂はせるように仕向けると同時に、婦人自身、自分達の問題についてハツキリした理解と、運動の方針とを持つ必要がある。

今日までのところ、既成のいかなる無産階級團体に於ても、婦人を敎育し組織する問題について特に考慮した例がなく、隨つて一定の方針がなく、常に行きあたりバツタリ、其場任せといふ有樣であつた。そして又、婦人

自身もこの狀態を余り怪まなかつた。思想團体に於ては婦人は男子と同等の立場で參加してゐることゝなつてはゐても、事實上重要な討議に關かることなく、講演會や例會の時に文字通り末席を汚して、隅の方に小さく固まつてゐたにすぎなかつた。そして婦人は婦人を組織することは自分らだけの責任であると考へて、それを運動團体の方針と結びつけて考へようとしなかつた。隨つて男子は婦人の問題を理解せず、婦人の組織は發達することが出來なかつた。

又勞働組合の內部に於ても、婦人勞働者は自分ら自身のために種々なる要求を提出し、自分らの問題を十分男子に理解させるだけの力がなかつた。そして男子も又、現在の社會に於ける婦人勞働者の特殊な地位と利害とについて十分考慮し、研究する代りに、たゞ面倒な、厄介な問題として回避するか、放置するか、といふ無責任な態度で臨んだ。かように婦人の組織に對する態度が、男女共に消極的で不活潑であつたために、思想團体に於ても、眞に男子と共に階級的戰線に立つことの出來る婦人鬪士を得ることが不可能であり、隨つて又、其背後に續く婦人大衆をも味方とすることが不可能であつた。

吾々は婦人を組織することを困難ならしめる客觀的な原因は勿論十分認めてゐる。けれども其等の客觀的な原因とても、決して絕對的なものではない。其客觀的な原因を十分に認めた上で、それに對する適當な運動の方法を講じたなら、婦人の間に於ける無產階級の運動が、今日ほどに未發達の狀態に留まつて居らねばならぬ絕對的な理由とては見出されないのである。要するに、無產階級の前衛を以て任ずる男女の、婦人大衆組織の問題に對する怠慢と不熱心とが、今日の結果を齎らしたものと考へて差支ないと、少くとも私自身は考へてゐる。

そこで是だけのことを認めた上で、今後は積極的に婦人の組織に努めるとして、さて當面の問題としては、吾々は先づ何をしたらよいかといふことが問題となる。こ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れに就ては、先づ既成の無産階級團体の內部に組織されてゐる婦人の敎育を先にすべきか、無組織の婦人大衆の組織を先にすべきかといふ二つの問題がある。

現に全國の勞働組合に加入してゐる婦人は七千七百人と稱せられてゐる。農民組合にも數千の婦人が屬してゐる。各地の俸給生活者組合、無産青年同盟、政治研究會の內部にもそれぞれ、極めて少數ではあるが婦人が組織せられてゐる。是等の婦人は現在の狀態では、その政治的自覺なり、階級意識なりの程度に於いて、遺憾ながら未組織の婦人大衆と殆んど異らぬといつても過言でないけれども兎も角も既成團体の中に組織されてゐるだけに幾分なりとも敎育し易く、啓發され易い境遇にゐることだけは事實である。そして吾々として先づ第一に必要なことは是等の婦人を眞に無産階級の闘士として敎育することでなければならぬ。既に經驗せられてゐる通りに、其敎育には想像を絕した困難が伴ふのである。政治研究會の如き、比較的智識程度の高い婦人を集めてゐる場合でも、勞働者敎育の任に當るだけの婦人は遺憾ながら多いとは云ひかねる。謂んや勞働組合、農民組合の婦人の大多數は、多くの老練者をして絕望させたほど、智識程度の低い、階級的自覺のおくれた要素である。

が、それにも拘はらず、吾々はいかなる困難を排しても、先づ第一に組織された無産婦人を敎育することから始めなければならぬ。未組織の無産婦人は、組織された婦人以上に自覺がおくれてゐるに留まらず、全く接近する道がないからである。勞働婦人を組合へ引つけるために、落語や演藝などの余興中心の集會を催すことは敎育的效果は薄いにしても、全然何もせずに、彼等を組合から遠ざけておくことよりはマシであるとしなければならぬ。どんな詰らぬ集會にしても、繼續的に、規則的に行はれたならば、知らず識らずの間に組合に對する親しみと理解を增さしめる程度の效果はあるものである。そして知らず識らずの間に、其集會の內容を高めて、徐々に敎育的效果の多いものとして行くことは、組織者の苦

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

心と手腕とを要するところである。

未組織の無產婦人は、既に組織されたる婦人の自覺と活動力の增大に伴つて、徐々に既成の團体の內部に吸收し、組織せらるべきであつて、現に組織されてゐる婦人の教育をさし措いて、一足飛びに無組織の婦人大衆を組織しようといふ企ては無謀であり、不可能である。かういふ見地から私は『無產婦人同盟』なる全然新しい性別本位の組織を起す必要と可能とを疑つてゐる。

現在に於ける吾々の第一の仕事は何であるか。私は既成團体の內部に於ける婦人の教育であると答へるに躊躇しない。そして各團体の內部の婦人同士の間に聯絡提携の要求が高まり、其間に鞏固な一致團結の道の開かれるように努めるのが急務であると考へる。無產階級の運動は、性別本位の運動ではなくて、階級的な運動である。隨つて吾々は、能ふ限り、性別本位の組織を避けることに努めねばならぬ。無產婦人は、男子と等しく、無產政黨、勞働組合、俸給生活者組合、農民組合、無產青年同盟、政治研究會等に組織せらるべきであり、其內部に於て男子と共に教育し、訓練せらるべきであつて、これ以外に特殊の、性別本位の團体をもつことが果して可能であるか、必要であるかは、私として大なる疑問としか感ぜられぬ。

いづれにせよ、此種の問題について、漫然たる抽象論に捉はれずに、無產婦人の實狀に即し、考察し、討議することは、吾々の運動全体にとつて極めて重要である。

（十一月十八日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聖マルチンの午後

伊福部敬子

目の下に入江を見下す、何年か、何十年か、歌聲の洩れたことのない廢院である。その裏手の石段にして、女は男をまつてゐた。

十一月の陽かげは、屹立するゴシックの屋根と、その上に死人の如く立てる十字架を照し、女の腕の、白い脂肪層にすべつてゐた。

花のない金雀枝と薔薇とが、庭を埋めてゐた。

男は、はるかなる繁みの彼方にして、高い香料の匂ひを聞いた。ふり仰ぐと、媚笑を含んだ女の視線が、頭の上におちてゐた。

男は、やがて、だまつて、女の手に唇をあてた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『私、ずいぶん待つたのよ、ごらんなさい、こんなにむしつちやつたは、かはいさうに、』

まともに媚をあらはした顔で、女は男を見上げた。そして、まはりに散らかつた金雀枝の葉を拂ひ落しながら、並んで腰かけた男の膝に、くづされるやうに重心を移した。

『全くかはいさうだ』

『誰が？』

しなやかな手指が、蛇のやうに男の手をとらへた。

『花も、あなたも』

『花もですつて？ジエニー』

女は男の膝をゆすぶると、ふり仰いではげしく脣をもとめた。男は、女のするに任せながら、ぷいと目をそらした。女の額に靑い疑ひが漂うた。

『あなた、私が氣にさはつて？』

女が立つた。

『なぜ』

『あしたがお別れだといふのに』

『だから、かうして來たじやありませんか』

男も立ち上つた。二人は、やがておりるともなく石段をおりてゐた。

『ジエニー、おぼえていらして？　あの野遊びの夕ぐれのことを。私が自家の馬車においてきぼりにされて

困つてゐること、あなたが自働車に入れて下すつたことを。黄楊の林がまつ暗でしたわ、白い道が長く長くつゞいてゐましたわ。あの時まで私あなたを知らなかつたのよ。そしてあの時、ねえ、ジエニー、あの時から私あなたのものになつたのだわ、自働車が石を蹴つて飛び上るたんびに……』

女の長い裾が、石段を拂つた。男は、しかし、黄色な午後の空氣の中に、目をさらしてゐた。

黒い手套、細く胸をしめつけた黒い上衣、聖い銀の十字架、そして、唇の上に泛べた貞淑な微笑……。男の目にさういふ女が浮んだ。

今朝、男はたゞ街の飲食店で、晩い朝食をすまして、仕立屋の方へ歩いてゐた。マルチンマスを控へて、明日は船にのりこまなければならぬ男は、一分の時間も惜しかつた。この間からいく度も最後の送引をしてゐたがまだ最後になつてゐなかつた。今日こそ、最後の、思殘りのない會見に、より多くの時間をもちたい、それ故男はたゞ急いでゐた。

その時、向ふから轡を並べて來た四輪馬車に、何氣なくちらと見た影、いま目の前にゐる女は、その時腹が大きくて手足の小さい紳士の前にして、實に貞淑な夫人であつた。伏せた捷毛の長い目に、男の憎しみはかゝつた。

『カウンテス、見ましたよ、あなたのベターハーフを』

女の囀るやうな思出話には答へず、男はこの言葉を冷い笑と共に吐き出した。一瞬驚きが女の顔に擴がつた。

『え?』

『けさ、十一時、ウエスト五番街で』

かさねて、男は蒼白い女の横顔へたゝきつけた。

『お彌撒のかへりだつたのですわ』

吐息と共に、つぶやく聲は力無い。

『お彌撒か、なるほど、信心家のおそろいですねえ』

男の淺い輕侮をふくんだ言葉に、女はすがりついた。

『ほんとにいやになつてしまふわ、お寺と財産管理人とより外には、良人にはないのよ』

羽虫が一羽、男の視線をとらへて、放物線を描いてとんだ。

二人は、石でたゝんだベンチに腰をおろした。二人の上には橄欖が黑い影をはつてゐた。二人の目の下には孛藍色の海がだまつてゐた。

『カウントは申分のない夫ですね、そしてあなたも申分のない夫人だし』

女は、ちらと男をかへりみた。しかし、オレーフ色に澄み切つた男の目からは、何にも讀みとることが出來なかつた。

『後生だから――』

そのあとを、女は口の中でくひとめた。

男は、海に凝視つてゐた。だまつて海に凝視つてゐた。女が、その前に坐つてゐるのを忘れたかのやうに。

あゝ、どうしたらいいのか、海が男をもつていつてしまふ、あの壯ましい波が男の愛を洗ひ去つてしまふ、明日、明日は男はもう私の何でもないのだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女は、海に喰ひ入る男の視線をひきちぎりたかつた。その中へ、自分をおどりこませたかつた。時が消えてゆく、男の魂がすりぬけてゆく、女はいらいらしく唇を噛んだ。

『あなた』

女は、男の膝の上に頽れかゝつた。男は長い腕で、スペイン型の女の髪をかゝへた。

『あなたは私があの人のいゝ夫人であればいゝと思つていらつしやるの、私あなたの何でもなくなつたんだわ、いゝえ、いゝえ、つれてつて頂戴、海があなたを奪つてゆくんだわ、どうしよう、あゝ、あなた、もつていつてちやうだい、私の心臓をもつていつてちやうだい、私、死んぢまふわ、いや、いや、私を殘していつてはいや、もつと强く抱いて、緊くしめて、ね、私あなたをはなれないわ、海のまん中までももつていつて、あゝ二人で一緒に陸をのこしてゆくんだわ、ほんとうによ、ね、私あの人のところへなんか歸らないから……』

入江はエメラルド色に明けてゐた。サン、シモン號は、その薄桃色の船体を、徐々に岸壁から退けてゐた。

その上甲板の喫煙室で、男は一人町を眺めてゐた。

『とうとう決定つてしまつたが、女はどうしたらう』と、男は思つた。

男は、自分の膝に狂ふやうに泣きすがら女の樣子を思ひ泛べた。

『あなたには、引きとめるカウントがありますよ』

さう云つた時つと女は体を起して見上げた。純情は目の中から一時に消えて、怒嗟がもえてゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

『どうしても？』

『どうしても』

やがて、薄暮れた廢院の門を、男と女とはだまつて出た——。

海がさらつてゆく、といつたが、その通りになつた、あの朝、あの伯爵と一緒にゐるあの女を見なかつたら二人一緒に海にさらはれていつたかも知れなかつたんだ。

『いたづらを深く黒衣につゝんで、銀の十字架をかけた、何と貞淑な夫人であつたらうか！』

女といふものは、まるで月のやうなものだ、七面鳥のやうなものだ、いや、妖魔のやうなものだ、あの薄い唇が、何人の男性の心を自由にかきまはすことか。

あの朝、夫と一緒にゐるあの女を見たのがいけなかつたんだ、いや、それがよかつたのかも知れない、女は何と信じられないものだらう、だが、しかし、あの女が言つたやうに、皆、波がやがて洗ひきよめてくれるだらう、この疑ひの苦しさも。

男は、朝霧の中にかすむ町を振りかへつた。青い戀の花の咲き落ちた廢院の塔は、高く、薄紅い陽にその尖端をそめてゐた。

マルチンマスのきのふ、酒場で、軒下で、公園の芝原の上で、出來上つたいく組かの戀は、町と共にまだ靜かにねむつてゐた。

◎誌代をお拂込み下さい

誌代の前金切れが大分たまりました。どうぞ、私たちの經營上の苦しみを少しくも輕くするために、あなたの誌代をお拂込み下さい。みなさんが各一冊分の誌代をおひき受け下さる事が、結果に於て、どんなに大きい力となつて私たちを働かせて下さるかわからないのです。

どうぞいまの社會に重大な使命をもつてゐるわが職業婦人社の仕事を支持するためにお力をかして下さい。集金郵便は双方に不利益で不快なものですから、出來る限りやめたいと思ひます。振替を利用するのが一番安あがりで確實でありますが、切手でも、爲替でも、御都合よいもので、お送金下さい。

◎新年號より四十八頁に

この單式印刷法に依ると、今まで二週間なくては出來上らなかつた本誌がたつた五日で仕あがる上に、値段も格安なので、新年號より四十八頁に增し、一層いゝ原稿をふやして立派な内容を盛つてお目にかゝります。

△編輯室にて▽

今月もまた發行日がおくれさうであつたので、最新式の單式印刷法に變へて一日も早くみなさんにお目にかけやう、と務めたのでしたが、やつぱりおくれてしまつて、實際申しわけがありません、云ひわけの理由をあげれば切りがないのですが、このさゝやかな家庭生活が、殆んど不可抗力を以て、働かうとあせる私の職業婦人社の仕事への心使ひを、無理にも押し流し押し流してゐることを心苦しく思ひます。

來年のことをいふと鬼が笑ふと申しますが、鬼ぐらゐに笑はれても、あれやこれやと空想や希望をつなぎ合せて理想表を擴げてみることは樂しみなものです。私は毎夜、子供がね靜まつたあとで、火鉢の上に顏を伏せてはいろんなことを考へたり打ち消したりして、樂しみな幾時間かを持つことがクセのやうになりました。そして、そんな場合に、讀者のみなさんと、火鉢をかこんで話し合へるのだつたらどんなにいゝだろうに、と、いつも、獨り居の佗しさを慨くのでした。

（む）

前納誌代	
一部	二十五錢　郵税五厘
半年分（郵税共）	一圓四十錢
一年分（郵税共）	二圓八十錢

送金法

誌代は必ず前金の事
送金は振替で願ひます
誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます

大正十四年十一月三十日印刷納本
大正十四年十二月一日發行

發行編輯兼印刷人　奥むめお
東京市外蒲田町女塚二四七

印刷所　單式印刷合資會社
東京市本郷區元町二ノ四一
電話　小石川二三九三番

發行所
東京市外蒲田町女塚二四七
職業婦人社
振替東京六四一六〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
大正十四年十一月三十日 印刷納本
大正十四年十二月一日發行（每月一回一日發行）

婦人運動 第三卷 第十號

【定價金二十五錢】 特許 單式印

御歳暮贈答用品賣出し

御歳暮の御贈答用には、何方様にも喜ばれる三越の品に限ります。賣出しには其のお恰好品を澤山に取り揃へました

贈るに御便利……三越の商品券……受けて御重寶

◆三越新宿分店……新宿停車場前
◆三越青山分店……青山學院前

東京市駿河町 三越呉服店

復刻版 婦人運動 第1回配本（第1巻～第5巻）
〈原題『婦人と労働』『婦人運動』〉

1990年6月25日発行

本体揃価格 50,000円

発行者 船橋 治
発行所 不二出版㈱
東京都文京区向丘1-2-12
〒113 ☎03（812）4433
印刷所 三進社
製本所 吉田製本工房

中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN